

平成7年度

平塚市美術館年報

ANNUAL REPORT

The Hiratsuka Museum of Art 1995

目次

企画展	4
常設展示	9
教育普及	17
保存・修復	32
収蔵作品	33
統計	39
沿革	42
組織・運営	43
美術館協議会	43
組織	44
職員名簿	44

企画展

ルーマニア国立美術館・ブルケンタール国立博物館所蔵

16～18世紀

ヨーロッパ絵画展

会期 平成7年4月22日（土）～5月21日（日）

主催 平塚市美術館・毎日新聞社

後援 外務省・文化庁・ルーマニア文化省・ルーマニア大使館

協力 日本航空

ブカレストにあるルーマニア国立美術館とシビウのブルケンタール国立博物館の美術部門には数多くの優れたヨーロッパ絵画が所蔵されている。本展覧会は両館の全面的な協力を得て、これらの優れたコレクションの精華ともいべき作品81点により構成され、日本初公開の作品を多数含むものであった。

本展覧会は、1979～80年の第1回展、1991～92年の第2回展の2度の同国立美術館展の実績が評価されて実現したもので、これらのコレクションを代表するばかりでなく、16世紀から18世紀にいたるヨーロッパ絵画を代表する重要な作家の作品を数多く含むものであった。フィレンツェ・マニエリスムを代表する画家ブロンジーノ、宗教改革の画家であり魅力的な女性像で知られるクラナハ、バロック絵画の最大の巨匠とされ17世紀前半のヨーロッパ絵画に圧倒的な影響を及ぼしたルーベンス、光と闇とのコントラストのうちに人間への深い愛情を詠いあげたレンブラント、炎のように妖しく燃え上がる形にたしかな信仰を託したスペインの奇才エル・グレコなど、いずれの作品も今まで海外で展示されることの少なかった作品であった。特にエル・グレコの「聖母の婚約」は、日本側の強い要請に応じて特別に出品された日本初公開の作品であった。

本展覧会により、16～18世紀のイタリア、フランドル、オランダ、フランス、スペイン、ドイツ・オーストリアなど、マニエリスムからバロック、ロココにいたるヨーロッパ絵画相互の影響関係及び歴史を窺い知ることができ、その魅力を鑑賞する貴重な機会を提供することができた。



展覧会図録 大きさ 28.0×22.5cm 頁数 224頁

テオドル・エネスク 「ルーマニア国立美術館のヨーロッパ絵画コレクション」

ドイナ・ウドゥレスク 「ブルケンタール国立博物館の美術部門—その歴史的な概要」

島田 紀夫 「隆盛期のヨーロッパ絵画—16～18世紀イタリアとフランドル絵画を中心に」

関連事業 ビデオ放映「16～18世紀ヨーロッパ絵画」 講堂

プリント・ワンダーランド

親と子でみる版と版画展

会 期 平成7年8月12日(土)～9月10日(日)

主 催 平塚市美術館

本展覧会は、教育普及的な性格に力点を置く企画として、われわれにとって身近な版画をテーマとして実施した。版画をその基本原理まで遡り、“版”という中間媒体による何らかの形象の転写として捉え、①版種ごとの技法の原理、②“版”そのものが古くからわれわれの生活と密接な関係を保ちながら発達してきた歴史と現在のわれわれの生活の中にある“版”の応用例、こうした“版”を表現技法として③高度に発達した美術表現としての版画、の3つの視点から版画の技法と表現への理解を深めようとした。

以上を基本として全体を、①木版、②銅版、③リトグラフ、④シルクスクリーン、⑤その他、の5つのブロックで構成し、その各々について上記の3つの視点からの展示をおこなった。とくに美術表現としての版画作品については、それぞれの技法で制作した代表的な作家による典型的な作品を展示し、各技法の表現の特質と歴史的な展開を辿ることのできる構成にした。

また、版画作品に加えて、護符、瓦版、双六、カルタなどから、今日の日常生活の中でわれわれが親しく接している版による資料をあわせて展示した。

さらに、来館者が、楽しみながら“版”への理解を深められるよう、〈体験コーナー〉を設け、木版の多色刷りによる風絵を制作した。

プリント・ワンダーランド
親と子でみる版と版画展



展覧会図録 大きさ 25.7×8.1cm 頁数 79頁

岡部 幹彦 「版と版画」

匂いたつ色彩の詩

菅野圭介展

会 期 平成7年9月23日(土)～10月29日(日)

主 催 平塚市美術館・読売新聞社

戦前戦後を通じて独立美術協会を舞台に活躍した画家、菅野圭介展を開催した。

菅野圭介は、明治42年(1909)、東京府牛込区矢来町に生れた。画家を志し京都帝国大学を中退し、昭和10年(1935)ヨーロッパに渡り、ジュール・フランソワの教えを受けた。

昭和11年(1936)秋に帰国し、翌年春の独立美術協会第7回展に《フランダース古城》《ノルマンディーの秋》を出品し、注目を集めた。その後独立美術協会に出品を続け、昭和18年(1943)会員となり、戦後は日本国際美術展、現代日本美術展等にも舞台を広げ、活躍した。

昭和27年(1952)の2度目の外遊のあと、画風は新たな広がりを見せ、昭和36年(1961)には葉山にアトリエも完成し、さらなる展開を期待されたが、健康を害し、昭和38年(1963)、食道癌のため53歳の早すぎる死をむかえた。

菅野圭介の作品は、ある種東洋的な雅趣をもつ、独特の単純化された色面で構成され、その詩情あふれる浪漫主義的な香は生涯変わることなく、彼が才気あふれる生れながらの画家であったことを物語っている。

本展覧会は、初期から晩年までの油彩画121点、素描11点によって、菅野圭介の画業を紹介した。



展覧会図録 大きさ 28.0×22.0cm 頁数 90頁

原田 実 「菅野圭介の画業について」

石渡 尚 「菅野圭介の作品(1935～1945)」

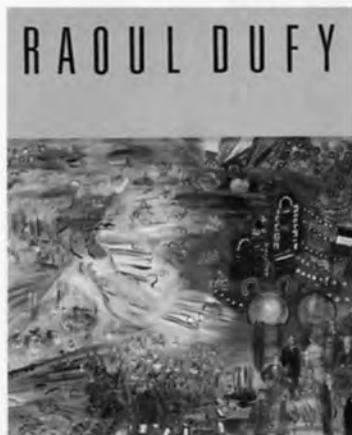
デュフィ展

会 期 平成7年11月11日(土)～12月17日(日)
主 催 平塚市美術館・朝日新聞社
後 援 フランス大使館
協 力 エールフランス

フランス近代絵画を代表する画家のひとりラウル・デュフィの全貌を、1937年パリ万国博覧会の際、フランスのパビリオンのひとつである電気館のために制作した、大壁画《電気の精》の1/10で描かれた縮尺版を中心に、この壁画制作のために描かれたポンピドーセンター国立近代美術館の所蔵のデュッサンのほか、パリ市近代美術館所蔵の初期から晩年に至る作品87点によって展観した。

デュフィは、キュビズムやフォーヴィスム、あるいは画家マティスなど当時のフランス美術の潮流に影響を受けながら、港やレガッタといった海の光景などを題材に〈生命の讃歌〉と評される独自の世界を創り上げたが、その明るい色彩と律動する線にあふれた作品群は湘南の地にふさわしいものとして好評を得た。また古代からはじまる電気にまつわる科学の歴史を壮大なコンポジションによって描いた大壁画《電気の精》は、デュフィの壁画家としての新たな一面を示す展示となった。

このほかパリ市近代美術館にある高さ10m、幅60mにおよぶ《電気の精》が実際に展示されている様子をビデオによって紹介した。



展覧会図録 大きさ 28.0×22.5cm 頁数 122頁
フィリップ・ピゲ「デュフィ、生命の讃歌」
高見堅志郎「デュフィ再見」

没後20年

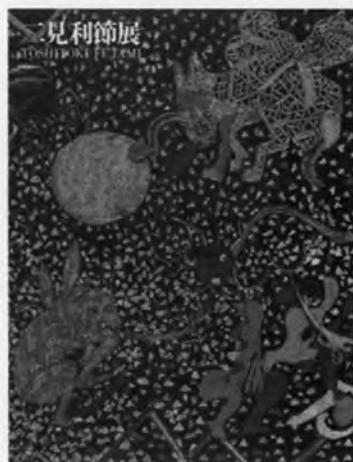
二見利節展

— 内なるものへの眼差し —

会 期 平成8年1月27日(土)～平成8年3月3日(日)
主 催 平塚市美術館
後 援 神奈川新聞社
協 賛 財団法人 東洋信託文化財団

湘南ゆかりの洋画家、二見利節(1911-1976)の没後20年にあたり、初の本格的な回顧展を開催した。現在の中郡二宮町出身の二見利節(本名利次)は、坂本繁二郎などの影響を受けながらほぼ独学で絵を学び、1938年(昭和13)に春陽会賞を受賞、翌年には文展特選を果たし、新進の若手画家として注目を集めた。その後の戦争体験を境に、二宮のアトリエに引きこもり制作に没頭する中、おびただしい数の作品を描きだした。外界の事物を存在させる原理を知ろうとする姿勢は、自分とは何者かという内面への探求となり、それが独特の生命感あふれる幻想的な画面を生みだした。

本展では、油彩をはじめパステルやエッチングなどの作品130点により、これまで知られる機会の少なかった二見の画業の歩みの全貌を伝えた。



展覧会図録 大きさ 28.0×21.6cm 頁数 118頁

- 原田 実 「二見利節の画業について」
重田 哲三 「二見利節の点描—1936(昭和11)年頃～」
野口 亨 「二見利節先生のこと
—1948(昭和23)年頃～」
二見 茂 「父二見利節のこと(没後20年展にあたって)」
小池 光理 「二見利節の作品—その変遷の過程」

関連事業 ビデオ放映 二見利節「在る」を求めて

常設展示

今年度の常設展示は、4回展示替をおこなった。1回から3回までは、湘南ゆかりの作家の生年順の作品コーナーを動線の初めに設け、日本画作品、写真作品、鳥海青児作品、寄贈作品のブロックを基本構成とした。4回目は企画展の拡張にともない展示室Ⅱの3分の2のスペースをあてた。日本画作品、湘南ゆかりの代表的作家の作品、寄贈された広津和郎コレクション、鳥海青児作品のブロックの構成とした。

第1回常設展示出品目録 7月4日～10月8日

■洋画

No	作者	作品名	制作年	材質・技法
1	黒田 清輝	波打ち際の岩	1896	油彩・板
2	黒田 清輝	由比ヶ浜	1897	油彩・板
3	小糸源太郎	春	1916	油彩・キャンバス
4	小糸源太郎	早春	1916	油彩・キャンバス
5	岸田 劉生	自画像	1917	コンテ・紙
6	岸田 劉生	石垣ある道	1921	油彩・キャンバス
7	岸田 劉生	Aの肖像	1913	油彩・キャンバス
8	椿 貞雄	鵠沼風景	1921	油彩・キャンバス
9	椿 貞雄	菊子坐像	1922	油彩・キャンバス
10	萬 鉄五郎	風景(塀の見える風景)	1915	油彩・キャンバス
11	萬 鉄五郎	海岸風景	1924	油彩・キャンバス
12	萬 鉄五郎	宙腰の人	1924	油彩・キャンバス
13	萬 鉄五郎	羅布かづく人	1924	油彩・キャンバス
14	萬 鉄五郎	雲と裸婦	1922	油彩・キャンバス
15	萬 鉄五郎	椿	1926	油彩・キャンバス
16	山本 鼎	国府津海浜より箱根連峰を望む	1936	油彩・キャンバス
17	金沢 重治	風強き浜辺	1930	油彩・キャンバス
18	松本 節	由比ヶ浜	1938	油彩・キャンバス
19	松本 節	廃園の夏	1934	油彩・キャンバス
20	松本 節	つた繁る頃	1933	油彩・キャンバス
21	松本 節	柿の木のある風景	1940	油彩・キャンバス
22	原 精一	静物	1923	油彩・キャンバス
23	原 精一	煙草のむ男	1936	油彩・キャンバス
24	原 精一	たまごのある静物	1956	油彩・キャンバス
25	原 精一	I先生肖像	1962	油彩・キャンバス
26	森田 勝	アルジェ風景	1932-34	油彩・キャンバス
27	森田 勝	街	1933頃	油彩・厚紙
28	森田 勝	女の顔	1933頃	油彩・キャンバス
29	中村 琢二	裸体	1937	油彩・キャンバス
30	中村 琢二	裸婦	1943	油彩・キャンバス
31	中村 琢二	奥大井	1983	油彩・キャンバス
32	二見 利節	男鹿の景	1941	油彩・キャンバス
33	二見 利節	玄武蘇上	1972	油彩・キャンバス

	No	作者	作品名	制作年	材質・技法	
■日本画	34	工藤 甲人	次郎雲	1970	紙本着色	
	35	工藤 甲人	残景図	1986	紙本着色	
	36	工藤 甲人	わが壁に	1985	紙本着色	
	37	下村 観山	竹林図	不詳	絹本着色	
	38	横山 大観	不盡之高嶺	1915	絹本着色	
	39	安田 靱彦	日食	1925	紙本着色	
	40	安田 靱彦	宮本二天像	1933	絹本着色	
	41	安田 靱彦	赤星母堂像	1943	紙本着色	
	42	安田 靱彦	新蔬	1940	絹本着色	
	43	今村 紫紅	瀧	1915	絹本着色	
44	今村 紫紅	老松	1911	紙本着色		
■洋画	45	井上 三綱	驚	1951	油彩・キャンバス	
	46	井上 三綱	仕事する女達	1957	油彩・キャンバス 〔撮影年・撮影地〕	
■写真	47	濱谷 浩	学芸諸家 堀口大学	1946	新潟県	
	48	濱谷 浩	学芸諸家 三好達治	1948	福井県	
	49	濱谷 浩	学芸諸家 安井曾太郎	1949	湯河原	
	50	濱谷 浩	学芸諸家 高村光太郎	1949	岩手県	
	51	濱谷 浩	学芸諸家 小林古径	1949	東京	
	52	濱谷 浩	学芸諸家 棟方志功	1951	新潟県	
	53	濱谷 浩	学芸諸家 矢代幸雄	1952	大磯	
	54	濱谷 浩	学芸諸家 木村荘八	1951	東京	
	55	濱谷 浩	学芸諸家 三岸節子	1952	東京	
	56	濱谷 浩	学芸諸家 高橋誠一郎	1952	大磯	
	57	濱谷 浩	学芸諸家 前田青邨	1953	鎌倉	
	58	濱谷 浩	学芸諸家 小林秀雄	1955	鎌倉	
	59	濱谷 浩	学芸諸家 川端康成	1956	鎌倉	
	60	濱谷 浩	学芸諸家 獅子文六	1955	大磯	
	61	濱谷 浩	学芸諸家 安田靱彦	1970	大磯	
	62	濱谷 浩	学芸諸家 開高健	1982	茅ヶ崎 〔材質・技法〕	
	■洋画	63	金子 保	裸婦	1928	油彩・キャンバス
		64	木村 荘八	ギターを弾く男(鳥海青児)	1930	油彩・キャンバス
65		鳥海 青児	札幌郊外	1928	コンテ・紙	
66		鳥海 青児	椅子にかける裸婦	不詳	鉛筆・紙	
67		鳥海 青児	風景	1928	コンテ・紙	
68		鳥海 青児	椅子に坐る男	不詳	鉛筆・紙	
69		鳥海 青児	ピカドール	1958頃	パステル・鉛筆・紙	
70		鳥海 青児	石をかつぐ	1958	パステル・水彩・鉛筆・紙	
71		鳥海 青児	アルゼリー港	1933	油彩・キャンバス	
72		鳥海 青児	段々畑	1952	油彩・キャンバス	
73		鳥海 青児	狸穴の森	1954	油彩・キャンバス	
74		鳥海 青児	黄色い人	1956	油彩・キャンバス	
75		鳥海 青児	根来瓶子と果物	1971	油彩・キャンバス	
76		鳥海 青児	伊賀瓶子とメロン	1957	油彩・合板	
77		鳥海 青児	メキシコの西瓜	1961	油彩・キャンバス	
78		鳥海 青児	インカの石街	1961頃	油彩・キャンバス	

No	作者	作品名	制作年	材質・技法	
79	鳥海 青児	はにわ	1959	油彩・キャンバス	
80	鳥海 青児	スペイン風景	1959	油彩・キャンバス	
■彫刻	81	木内 克	手のあるトルソ	1958	ブロンズ
■洋画	82	小関 利雄	五月の箱根	1966	油彩・キャンバス
	83	真垣 武勝	浅間高原(追分)	不詳	油彩・キャンバス
	84	真垣 武勝	早春霧ヶ峰	不詳	油彩・キャンバス
	85	平野 杏子	青い太陽	1987	油彩・キャンバス
	86	島田 しづ	時潮	1992	水彩・紙
	87	山崎 隆夫	凱風	1970	油彩・キャンバス
	88	三橋兄弟治	セゴビアの古寺と民家	1968	水彩・紙
	89	横地 康国	光を求める群	1968	油彩・キャンバス

第2回常設展示出品目録 10月10日～1月28日

No	作者	作品名	制作年	材質・技法	
■洋画	1	黒田 清輝	波打ち際の岩	1896	油彩・板
	2	黒田 清輝	由比ヶ浜	1897	油彩・板
	3	岸田 劉生	自画像	1917	コンテ・紙
	4	岸田 劉生	F氏像	1914	油彩・キャンバス
	5	岸田 劉生	Aの肖像	1913	油彩・キャンバス
	6	岸田 劉生	石垣ある道	1921	油彩・キャンバス
	7	椿 貞雄	菊子坐像	1922	油彩・キャンバス
	8	椿 貞雄	朝子像	1927	油彩・キャンバス
	9	中川 一政	椅子の少女	1916	油彩・キャンバス
	10	萬 鉄五郎	風景(塀の見える風景)	1915	油彩・キャンバス
	11	萬 鉄五郎	海岸風景	1924	油彩・キャンバス
	12	萬 鉄五郎	宙腰の人	1924	油彩・キャンバス
	13	萬 鉄五郎	羅布かづく人	1924	インク・紙
	14	萬 鉄五郎	雲と裸婦	1922	油彩・キャンバス
	15	萬 鉄五郎	椿	1926	油彩・キャンバス
	16	山本 鼎	国府津海浜より箱根連峰を望む	1936	油彩・キャンバス
	17	金沢 重治	風強き浜辺	1930	油彩・キャンバス
	18	松本 節	由比ヶ浜	1938	油彩・キャンバス
	19	松本 節	廃園の夏	1934	油彩・キャンバス
	20	松本 節	つた繁る頃	1933	油彩・キャンバス
	21	松本 節	柿の木のある風景	1940	油彩・キャンバス
	22	原 精一	静物	1923	油彩・キャンバス
	23	原 精一	座裸婦	1955頃	油彩・キャンバス
	24	原 精一	たまごのある静物	1956	油彩・キャンバス
	25	原 精一	I先生肖像	1962	油彩・キャンバス
	26	森田 勝	アルジェ風景	1932-34	油彩・キャンバス
	27	森田 勝	街	1933頃	油彩・キャンバス
	28	森田 勝	女の顔	1933頃	油彩・キャンバス
	29	中村 琢二	裸体	1937	油彩・キャンバス

No	作者	作品名	制作年	材質・技法
30	中村 琢二	裸婦	1943	油彩・キャンバス
31	中村 琢二	奥大井	1983	油彩・キャンバス
32	青山 義雄	バラアーチ	1990	油彩・キャンバス
33	小山 敬三	晩秋飛瀑	1977	油彩・キャンバス
■日本画				
34	工藤 甲人	樹木のうた	1956	紙本着色
35	工藤 甲人	蝶の階段	1967	紙本着色
36	工藤 甲人	わが壁に	1985	紙本着色
37	工藤 甲人	杉	1983	紙本着色
38	工藤 甲人	天星(アンドロメダ)	1981	紙本着色
39	近藤 弘明	寂詔苑	1982	紙本着色
■洋画				
40	井上 三綱	箱根紅葉	1947頃	油彩・キャンバス
41	井上 三綱	馬を御す	1949	油彩・キャンバス
42	井上 三綱	習作	1950	胡粉・水彩・厚紙
43	井上 三綱	駆け出した牛	1956	油彩・キャンバス
44	井上 三綱	壺	1959	油彩・コンテ・紙
45	井上 三綱	たね	1975	水彩・鉛筆・墨・紙
46	井上 三綱	王と妃	1961	水彩・墨・紙
47	井上 三綱	働く人	1958	墨・紙
■写真				
48	濱谷 浩	学芸諸家 堀口大学	1946	新潟県
49	濱谷 浩	学芸諸家 三好達治	1948	福井県
50	濱谷 浩	学芸諸家 安井曾太郎	1949	湯河原
51	濱谷 浩	学芸諸家 高村光太郎	1949	岩手県
52	濱谷 浩	学芸諸家 小林古径	1949	東京
53	濱谷 浩	学芸諸家 棟方志功	1951	新潟県
54	濱谷 浩	学芸諸家 矢代幸雄	1952	大磯
55	濱谷 浩	学芸諸家 木村荘八	1951	東京
56	濱谷 浩	学芸諸家 三岸節子	1952	東京
57	濱谷 浩	学芸諸家 高橋誠一郎	1952	大磯
58	濱谷 浩	学芸諸家 前田青邨	1953	鎌倉
59	濱谷 浩	学芸諸家 小林秀雄	1955	鎌倉
60	濱谷 浩	学芸諸家 川端康成	1956	鎌倉
61	濱谷 浩	学芸諸家 獅子文六	1955	大磯
62	濱谷 浩	学芸諸家 安田靫彦	1970	大磯
63	濱谷 浩	学芸諸家 開高健	1982	茅ヶ崎
■洋画				
64	金子 保	裸婦	1928	油彩・キャンバス
65	木村 荘八	ギターを弾く男(鳥海青児)	1930	油彩・キャンバス
66	鳥海 青児	芦屋風景	1926	油彩・板
67	鳥海 青児	シベリヤ駅路の雪	1930	油彩・キャンバス
68	鳥海 青児	アルジェ風景	1932	油彩・キャンバス
69	鳥海 青児	水田	1936	油彩・キャンバス
70	鳥海 青児	林泉	1947	油彩・キャンバス
71	鳥海 青児	ピカドール	1958	油彩・キャンバス
72	鳥海 青児	石だたみ(印度ベナレス)	1962	油彩・キャンバス
73	鳥海 青児	黄色い人	1956	油彩・キャンバス

No	作者	作品名	制作年	材質・技法	
74	鳥海 青児	メキシコの西瓜	1961	油彩・キャンバス	
75	鳥海 青児	インカの石街	1961頃	油彩・キャンバス	
76	鳥海 青児	はにわ	1959	油彩・キャンバス	
77	鳥海 青児	フラメンコ	1972	油彩・キャンバス	
■彫刻	78	木内 克	手のあるトルソ	1958	ブロンズ
■洋画	79	野口弥太郎	裸婦	1951	油彩・キャンバス
	80	里見 勝蔵	イビサの田野	1961	油彩・キャンバス
	81	三岸 節子	インカの壺	1968	油彩・キャンバス
	82	平野 杏子	青い太陽	1987	油彩・キャンバス
	83	島田 しづ	時潮	1992	水彩・紙
	84	島田 章三	エウローペ	1968	油彩・キャンバス
	85	木下 公男	エレファントの村	1979	油彩・キャンバス
	86	岡本 里次	小雪降る街角	1967	油彩・キャンバス

第3回常設展示出品目録

1月30日～3月24日

No	作者	作品名	制作年	材質・技法	
■洋画	1	黒田 清輝	波打ち際の岩	1896	油彩・板
	2	黒田 清輝	由比ヶ浜	1897	油彩・板
	3	岸田 劉生	自画像	1917	コンテ・紙
	4	岸田 劉生	F氏像	1914	油彩・キャンバス
	5	岸田 劉生	Aの肖像	1913	油彩・キャンバス
	6	岸田 劉生	石垣のある道	1921	油彩・キャンバス
	7	椿 貞雄	菊子坐像	1922	油彩・キャンバス
	8	椿 貞雄	朝子像	1927	油彩・キャンバス
	9	中川 一政	椅子の女	1941	油彩・キャンバス
	10	萬 鉄五郎	風景(塀の見える風景)	1915	油彩・キャンバス
	11	萬 鉄五郎	海岸風景	1924	油彩・キャンバス
	12	萬 鉄五郎	宙腰の人	1924	油彩・キャンバス
	13	萬 鉄五郎	羅布かづく人	1924	インク・紙
	14	萬 鉄五郎	雲と裸婦	1922	油彩・キャンバス
	15	萬 鉄五郎	椿	1926	油彩・キャンバス
	16	山本 鼎	国府津海浜より箱根連峰を望む	1936	油彩・キャンバス
	17	松本 節	由比ヶ浜	1938	油彩・キャンバス
	18	小糸源太郎	春	1916	油彩・キャンバス
	19	小糸源太郎	早春	1942	油彩・キャンバス
	20	原 精一	座裸婦	1955頃	油彩・キャンバス
	21	原 精一	たまごのある静物	1956	油彩・キャンバス
	22	原 精一	女達	1963	油彩・キャンバス
	23	森田 勝	アルジェ風景	1932-34	油彩・キャンバス
	24	森田 勝	街	1933頃	油彩・厚紙
	25	森田 勝	女の顔	1933頃	油彩・キャンバス
	26	中村 琢二	裸体	1937	油彩・キャンバス
	27	中村 琢二	裸婦	1943	油彩・キャンバス

	No	作者	作品名	制作年	材質・技法
	28	中村 琢二	奥大井	1983	油彩・キャンバス
	29	山下大五郎	平塚風景	1930	油彩・キャンバス
	30	青山 義雄	バラアーチ	1990	油彩・キャンバス
	31	小山 敬三	晩秋飛瀑	1977	油彩・キャンバス
■日本画	32	工藤 甲人	夢と覚醒	1971	紙本着色
	33	北沢 映月	女人己	1972	紙本着色
	34	広田 多津	髪	1989	紙本着色
	35	岩橋 英遠	戸隠	1976	紙本着色
	36	麻田 鷹司	雪後山水	1970	紙本着色
■洋画	37	井上 三綱	牛小屋	1953	油彩・キャンバス
	38	井上 三綱	習作	1950	胡粉・水彩・厚紙
	39	井上 三綱	駆け出した牛	1956	油彩・キャンバス
	40	井上 三綱	壺	1959	水彩・コンテ・紙
	41	井上 三綱	たね	1975	水彩・鉛筆・墨・紙
	42	井上 三綱	王と妃	1961	水彩・墨・紙
	43	井上 三綱	働く人	1958	墨・紙
■写真	44	濱谷 浩	地藏様年始	1940	上越市北谷
	45	濱谷 浩	ホンヤラ洞にゆく子供たち	1956	十日町
	46	濱谷 浩	ホンヤラ洞で歌う子供たち	1956	十日町
	47	濱谷 浩	草鞋を売る老婆	1956	十日町
	48	濱谷 浩	雁木下をゆくゴゼ	1956	上越市
	49	濱谷 浩	村の全景	1940～50	桑取谷
	50	濱谷 浩	アキの方向に向かって歩きだす	1940～50	桑取谷
	51	濱谷 浩	若木迎えの山に入る	1940～50	桑取谷
	52	濱谷 浩	若木に祈る	1940～50	桑取谷
	53	濱谷 浩	シン木を立てる	1940～50	桑取谷
	54	濱谷 浩	スイサンボ	1940～50	桑取谷
	55	濱谷 浩	餅をつく	1940～50	桑取谷
	56	濱谷 浩	マイダマをつくる	1940～50	桑取谷
	57	濱谷 浩	太刀をつくる	1940～50	桑取谷
	58	濱谷 浩	十五日夜のおまいり	1940～50	桑取谷
	59	濱谷 浩	村の子供	1940～50	桑取谷
	60	濱谷 浩	鳥追いにでる	1940～50	桑取谷
	61	濱谷 浩	歌ってゆく鳥追い	1940～50	桑取谷
	62	濱谷 浩	水浴びする河原	1940～50	桑取谷
	63	濱谷 浩	理趣文の点読	1940～50	桑取谷
	64	濱谷 浩	太刀をもつ子	1940～50	桑取谷
	65	濱谷 浩	焼草集めの子供	1940～50	桑取谷
	66	濱谷 浩	嫁祝い	1940～50	桑取谷
	67	濱谷 浩	賀祝い	1940～50	桑取谷
	68	濱谷 浩	フレゴト	1940～50	桑取谷
	69	濱谷 浩	火を移す	1940～50	桑取谷
	70	濱谷 浩	サイの神の行事に集まった人たち	1940～50	桑取谷
	71	濱谷 浩	タイマツのうちあい	1940～50	桑取谷
	72	濱谷 浩	朝の祝餅	1940～50	桑取谷

No	作者	作品名	制作年	材質・技法
73	濱谷 浩	寺参り		1940～50 桑取谷
■洋画				
74	金子 保	裸婦	1928	油彩・キャンバス
75	木村 荘八	ギターを弾く男(鳥海青児)	1930	油彩・キャンバス
76	野口弥太郎	裸婦	1951	油彩・キャンバス
77	里見 勝蔵	イビサの田野	1961	油彩・キャンバス
78	鳥海 青児	芦屋風景	1926	油彩・板
79	鳥海 青児	シベリヤ駅路の雪	1930	油彩・キャンバス
80	鳥海 青児	アルジェ風景	1932	油彩・キャンバス
81	鳥海 青児	水田	1936	油彩・キャンバス
82	鳥海 青児	沖縄風景	1940	油彩・キャンバス
83	鳥海 青児	林泉	1947	油彩・キャンバス
84	鳥海 青児	ピカドール	1958	油彩・キャンバス
85	鳥海 青児	石だたみ(印度ベナレス)	1962	油彩・キャンバス
86	鳥海 青児	黄色い人	1956	油彩・キャンバス
87	鳥海 青児	メキシコの西瓜	1961	油彩・キャンバス
88	鳥海 青児	インカの石街	1961頃	油彩・キャンバス
89	鳥海 青児	はにわ	1959	油彩・キャンバス
90	鳥海 青児	フラメンコ	1972	油彩・キャンバス
■彫刻				
91	木内 克	手のあるトルソ	1958	ブロンズ
92	養島 義一	叫び	1973	木彫・レリーフ
■洋画				
93	三岸 節子	インカの壺	1968	油彩・キャンバス
94	養田 艶子	極楽華	1971頃	油彩・キャンバス
95	平野 杏子	青い太陽	1987	油彩・キャンバス
96	本荘 赳	大徳寺方丈の土間	1968	油彩・キャンバス
97	本荘 赳	脳病院のある丘	1965	油彩・キャンバス
98	大貫 達雄	山峡	1973	水彩・紙
99	河野日出雄	寒い公園	1973	油彩・キャンバス

第4回常設展示出品目録

3月26日～6月23日

No	作者	作品名	制作年	材質・技法
■日本画				
1	安田 靱彦	寒香留古春	1920	絹本着色
2	安田 靱彦	菅公幼少の図	1939頃	絹本着色
3	安田 靱彦	相撲の節	1907	絹本着色
4	安田 靱彦	稚児文殊	不詳	絹本着色
5	安田 靱彦	赤星母堂像	1943	紙本着色
6	安田 靱彦	孔子観河	不詳	絹本着色
7	鑄木 清方	洛外の春	明治中期	絹本着色
8	工藤 甲人	相	1983	紙本着色・四曲一隻
9	鈴木 至夫	春	1955	紙本着色
10	吉川 朝衣	早春		紙本着色
11	山本 丘人	入江	1954	紙本着色

■洋画

No	作者	作品名	制作年	材質・技法
12	岸田 劉生	石垣ある道	1921	油彩・キャンバス
13	岸田 劉生	F氏像	1914	油彩・キャンバス
14	椿 貞雄	菊子坐像	1922	油彩・キャンバス
15	中川 一政	椅子の少女	1916	油彩・キャンバス
16	中川 一政	椅子の女	1941	油彩・キャンバス
17	萬 鉄五郎	宙腰の人	1924	油彩・キャンバス
18	萬 鉄五郎	風景(塀の見える風景)	1915	油彩・キャンバス
19	萬 鉄五郎	椿	1926	油彩・キャンバス
20	原 精一	たまごのある静物	1956	油彩・キャンバス
21	原 精一	坐裸婦	1955頃	油彩・キャンバス
22	真垣 武勝	セーヌ川のノートルダム	1957	油彩・キャンバス
23	山下大五郎	早春	1941	油彩・キャンバス
24	二見 利節	三人の女	1939	油彩・キャンバス
25	鳥海 青児	シベリヤ駅路の雪	1930	油彩・キャンバス
26	鳥海 青児	グーベルヌマン広場	1932	油彩・キャンバス
27	鳥海 青児	アルジェ風景	1932	油彩・キャンバス
28	鳥海 青児	水田	1936	油彩・キャンバス
29	鳥海 青児	ピカドール	1958	油彩・キャンバス
30	鳥海 青児	ブラインドをおろす	1959	油彩・キャンバス
31	鳥海 青児	石橋のある風景	1937	油彩・キャンバス
32	鳥海 青児	アカシア	1941	油彩・キャンバス

■広津コレクション

33	萬 鉄五郎	海岸風景	1924	油彩・キャンバス
34	林 倭衛	白い橋と緑樹	1921~26	油彩・キャンバス
35	牧野 虎雄	庭小徑(秋)	1933	油彩・キャンバス
36	高畠達四郎	樹木・箱根連山	1936	油彩・キャンバス
37	松山 文雄	肥料会社		油彩・キャンバス
38	鍋井 克之	勝浦温泉	1950	油彩・キャンバス
39	鍋井 克之	琵琶湖のヨット	1950	油彩・キャンバス
40	上野山清貢	牛	1928	油彩・板
41	別府貫一郎	霧のベネツィア	1955	油彩・キャンバス
42	須田 剋太	文楽おそめ	1967	混合技法・色紙
43	須田 剋太	冬瓜	1967	混合技法・色紙
44	須田 剋太	祝猿	1967	混合技法・色紙
45	恩地孝四郎	コンポジション	1953	リトグラフ・紙
46	恩地孝四郎	ポエムNo.21	1953	リトグラフ・紙
47	安井曾太郎	東京駅前の朝		鉛筆淡彩・紙
48	歌川 国貞	澤村田之助尾上松助	1830~44	多色刷木版・紙
49	小出 権重	めでたき風景	1926	紙本淡彩・軸
50	平福 百穂	酸漿草	1919	紙本淡彩・軸

資料展示 植物のかたちと色

開催日時 10月13日(金)～12月3日(日)の毎週金土日

13:00～16:50延べ24日開催

開催場所 アトリエA

観覧者数 1,200人程度

「植物のかたちと色」をテーマにしたワークショップの開催期間中、アトリエAで関連する資料を展示しました。ワークショップへの参加だけでなく、これらの資料に参加者が親しく触れることにより、その理解に広がりが増えることが期待できるからである。また、この資料展示はワークショップ参加者をはじめ、一般の来館者にも公開された。

今回は公開製作「紙と人の間－和紙の中に住んでみる－」で製作した和紙の家や、レクチャー「草木染－日本の色を求めて－」に関連する草木染めの布や材料などを中心に展示しました。

展示資料

〔草木染資料〕(山崎青樹氏の資料から) () 内は媒染剤名

紅花(クエン酸) / くぬぎ(灰汁) さくろ(鉄) / あかね(酢酸アルミ)

藍生葉+こぶなぐさ(酢酸アルミ) / やまもも(銅) すおう(みょうばん)

藍 / うこん(クエン酸) / いちい(銅) / くり(銅) / しこん(椿灰汁)

〔和紙の家〕(紙舗直坂本直昭氏制作)

床、壁、障子など建物の内外すべてに日本の和紙を貼り、部屋の中に柿渋をぬり和紙を貼った机を置いた。

〔紙〕さまざまな和紙

十川泉貨紙 / 加賀箔打紙 / 英国水彩画用紙 / 麻布紙 / 小国紙 / 美晒紙

インドコットン紙 / ブータンの紙(紙舗直)

薄美濃紙 / 雲肌麻紙 / 白麻紙(岩野平三郎製紙所)

〔流木〕

流木の椅子とランプ(岩崎永人氏制作) 流木(富士川河口)

〔バスケットリー〕

さまざまなかごの資料(平塚市博物館)

かごの材料(関島寿子氏の資料から)

〔画材の中の植物素材〕

木炭の資料 ヤナギ / ハンノキ / クワ(伊研)

キャンパスの材料 亜麻 / 亜麻の繊維 / キャンパス地(フナオカ)

画用油 ベネシヤンターペンタイン / スタンドリンシードオイル / リンシードオイル / ラベンダーオイル(ホルベイン工業)

植物の黒色絵具 胡麻油煙 / 菜種油煙 / 松煙(和田栄寿堂)

バインブラック / ピーチブラック

植物の赤色絵具 紅花顔料 / 茜顔料

〔これまでのワークショップから〕

藍の生葉染め色見本 / 写真パネル

平塚の植物で染めた色見本の糸



展示風景

植物のかたちと色

レクチャー **草木染** —日本の色を求めて—

講 師 山崎青樹（草木染研究/染色家/群馬県重要無形文化財保持者）
開催日時 10月22日(日) 14：00～16：00
対象/人数 120名
会 場 講 堂

日本の植物の色の名前と材料の関係や染色の方法の探求などについて、多岐にわたる講師のこれまでの研究や考察をレクチャーし、特に日本の伝統の色である「藍」についてその伝播の歴史などを中心に話していただきました。また、山崎氏の父が始めたという身近な植物で染める「草木染」の歴史についても講義しました。



講演会

植物のかたちと色

公開制作 紙と人の間

—和紙の中に住んでみる—

講 師 坂本直昭（紙舗直代表）

平井政和（紙舗直）

開催日時 10月13日（金）14日（土）10：30～16：30

対象／人数 一般／70名

会 場 アトリエA

6畳程度の和紙の家をアトリエA内に制作しました。はじめに床をつくり、家の骨格となる柱を建てました。次に壁には草木染めした和紙をしょうふのりで貼り、障子にも和紙を貼っていきます。和紙の家の天井は、竹に和紙を渡して圧迫感のない空間をつくっています。また、部屋の中には柿渋の和紙を貼った机や座布団、掛け軸等を置いてあります。この家は、内外全体が和紙で覆われています。

公開制作なので、和紙の家の制作プロセスは観覧者が自由に見学し、質問が出たときは作業の合間を見て制作者に答えていただきました。

和紙の家は資料展示の一部で、資料展示期間中は来場者が中に入って和紙の空間を体験できるようにしました。



完成した和紙の家（全体）

植物のかたちと色

レクチャー 和紙に触れる、和紙を知る

講 師 坂本直昭（紙舗直代表）

開催日時 10月28日（土）13：30～16：30

対象／人数 一般／65人

会 場 美術館講堂

まず、一般に販売されている7種類の障子紙を来場した方々に配布し、和紙だと思っていた障子紙がそうではなく、生活の中に和紙が少なくなってしまったことから話をはじめました。次に5種類の手漉き紙を配布しました。この紙はブータンの紙、英国の水彩画用紙、日本の紙箔合紙、雁皮紙、日本の溜め漉き紙で、世界にはさまざまな手漉き紙があることを話しました。また、和紙という名でさまざまな材質のものが流通している一方で昔ながらの方法で和紙制作している人がほとんどいなくなりつつある事などについて語りました。

最後に和紙を生活の中に生かす方法のひとつとして、しょうふのりをつくって板に和紙を貼りました。会場からも希望者を募って、板に和紙を貼る体験をしました。



ふのりをつくる



和紙を貼る

植物のかたちと色

ワークショップ 自然を編む

—立体造形としてのバスケットリー—

講師 関島寿子（かご制作者）

アシスタント 山田悦子

開催日時 11月19日(日) 24日(金) 12月1日(金) 3日(日) 全4日間
10:30~16:30

対象/人数 28名

会場 アトリエB・研修室

かごは小さな建築物です。植物の素材を使ったかごづくりを通して立体造形の考え方を体験しました。今回のワークショップでは、自分で構造や技法を考えることで、表現の方法となるかごづくりを目指しました。

初日は講義で、バスケットリーに対する講師の考え方をはじめ、さまざまなバスケットリーの作品をスライドで上映しました。2日目には、荷造り用紙バンドを素材にさまざまに変化させる実習をおこないました。そして、3日目はかごづくりの素材となる葛を採取に出かけ、午後は葛やその他の植物を使って紙バンドと同じように変化させてみました。最終日には参加者が自宅にあるかごを観察して紙バンドや植物の素材で編んできたものをみんな観察し、話し合いました。

11/19 午前 素材へのアプローチ

午後 バスケットリーについて講義とスライド上映

11/24 午後 紙バンドによる制作

制作したものについての対話

12/1 午前 葛の蔓を採取（花水川中州）

午後 葛の蔓や持参したその他の植物を使って制作

12/3

参加者が制作してきたかごについての対話



植物のかたちと色

ワークショップ 流木でつくる空想動物園

講師 岩崎永人（造形作家）
リーダー 池田和子 大坪加奈 三輪太一 森 栄二 山田悦子
開催日時 11月11日（土）12日（日）10：00～16：30
対象／人数 小学生／22名
会場 アトリエB・平塚海岸

これは小学生を対象としたワークショップで、大きな流木をたくさん使って立体作品を制作しました。まず、平塚の海に落ちていたものを観察し、おもしろそうな物、気になる物、流木などを拾います。しかし、季節柄流木が少なかったため、作品制作の流木のほとんどは、夏に静岡の海岸で拾っておいたものを使用しました。

制作に取りかかる前に、恐竜のイラストや骨、動物の化石の図鑑、ヨーロッパの版画に描かれた想像上の動物達などをたくさん見ました。また、流木で制作した講師の作品もスライドで上映し、作品についてお話をしました。

6人程度の子ども達のグループにリーダー1人という組み合わせで、ひとつの作品を共同制作しています。全部で4作品ができあがり、最後にアトリエから前庭に出て子ども達が作品と一緒に記念撮影をしました。作品は、美術館内エントランスホールで2週間展示しました。

- 11/11 午前 アトリエBに集合
マイクロバスに乗って平塚海岸へ向かう
平塚海岸を虹が浜から花水川の河口まで歩く
落ちているものを観察し、おもしろいものや興味のあるものを拾う。
午後 拾ってきたものを発表する
想像から生まれた生物や、動物の骨格の図鑑などをみんなで見る
流木の形をそのまま何かに見立てて小さな作品をつくる
- 11/12 午前 講師の作品のスライドを上映し、作品についてお話しする（講堂）
紙にクレヨンでイメージをスケッチする
4つのグループに分かれて作品を制作
午後 引き続き作品を制作する
美術館前庭にてできあがった作品と子どもとリーダーが記念撮影



平塚海岸で材料をひろう



植物のかたちと色

オープンワークショップ

紅花で染めるもも色さくら色

ワークショップスタッフ 岡本年子 池谷敏子 石井玲子 井出悠理子
大友康子 高橋久子 中原僚子 宮内富美江
山岸八千代 山田悦子

開催日時 10月29日(日) 11月3日(金) 17日(金) 25日(土) 26日(日) 12月2日(土)
日 時 10:30~16:30
対象/人数 こどもからおとなまで/493人
会 場 アトリエB

誰でもその場で参加できるオープンワークショップを10人のボランティアで開催しました。オープンワークショップの内容は、紅花の乱花や紅花餅で絹のハンカチやスカーフを染めてみるというものでした。ワークショップの準備段階ではスタッフのための紅花染のテキストを用意し、紅花染のリハーサルを開催し、第1回のオープンワークショップの後に大賀藕絲館の梅原隆さんによる勉強会も開かれました。

オープンワークショップでは午前と午後に分かれて交代で3~4人のスタッフが指導を担当しました。予想以上に来場者が多く、忙しい日が続きました。また、開催日の前日には紅花を洗ったり、用具の準備の仕事もありました。オープンワークショップの日程をすべて終えた後、今回の試みを冊子にまとめるかどうか話し合い、およそ3ヶ月程かかって制作したのが「オープンワークショップレポート 紅花で染めるもも色・さくら色」です。デザイン、原稿の執筆をはじめ、表紙に紅花染の布を染めて貼る作業などはワークショップスタッフが担当し、ようやく完成したものです。この冊子は5,000部制作し、美術館内で無料で配布しています。

- | | |
|---------|--|
| 10月 | ワークショップスタッフの募集
スタッフのためのリハーサル |
| 10月~12月 | オープンワークショップを延べ6回開催 |
| 12月 | 小冊子「オープンワークショップレポート 紅花で染めるもも色
さくら色」原稿執筆分担 |
| 1月 | 編集作業 |
| 2月 | 「オープンワークショップレポート 紅花で染めるもも色さくら
色」発行・配布開始 |



植物のかたちと色

ワークショップ 漆のオブジェ

—植物の種と果物のかたち—

講師	藤田敏彰（東京芸術大学漆芸科講師・漆造形家）
アシスタント	山田りえ
開催日時	11月4日(土) 5日(日) 18日(土) 23日(木) の全4日 10:30~16:30
対象/人数	一般/18名
会場	アトリエB・講堂

漆は木の樹液で、漆器のお椀やお盆類などを通してよく知られている素材です。今回は漆という素材の体験として、植物の種や実からイメージしたオブジェを制作しました。制作にあたってはキワノ、スターフルーツ、ヒシ、ランブータン、椰子の実、ザクロ、落花生、どんぐりなどさまざまな果物や種をあつめてみんなで観察しました。

はじめに、バルサ材で原形となる木地をつくり、その上に漆粘土（地の粉、木粉、生漆などを混ぜたもの）を何度も塗り、研ぎます。次に、風呂に入れて乾燥させます。最後に耐水ペーパーで水研ぎして固め用漆液を塗ってふき取った後、好みの色の漆を塗って仕上げます。塗り終わったら、再び風呂に入れて乾燥させました。

漆の主成分のウルシオールが引き起こす皮膚のかぶれを心配しましたが、扱う際の注意を丁寧に話したためか、参加者のほとんどはどきもかぶれることなく4日間を無事に終えることができました。



- 11/4 漆についての講義
アジアの漆のスライド上映（講堂）
- 11/5 10×10×20cmのバルサ材を削る
作品を立てるための支え棒をはめ込む
本体に漆粘土 厚目/薄目を塗布
- 11/18 割れた部分の接着
耐水ペーパーで研ぐ
- 11/23 耐水ペーパーで水研ぎ
表面に仕上げの漆を塗る

宝珠荘開会式 **みる・きく・はなす・美術鑑賞**

リーダー 当館学芸員
開催日時 3月23日(土) 10:30~12:00
対象/人数 一般/1グループ
会場 アトリエAおよび常設展示室など

このプログラムは、グループ（3人以上10人以下）参加を対象とした作品鑑賞と美術館を知るための講座です。いわゆる展示解説とは少し異なり、参加した方とお話することで美術をみることの糸口を探していきます。この講座は3月に開始し、平成8年4月以降も引き続き開催します。

WSCワークショップクラブ 植物から生まれる色

リーダー 当館学芸員
開催日時 1月27日(土)、2月3日(土)、3月9日(土)、20日(水)
13:00~16:30
(平成8年度の開催日)
対象/人数 一般/32名
会場 アトリエA・B

ワークショップクラブとはメンバーが中心となって興味のあることから調べたり、発表したりして、積極的に進行や運営にかかわって活動する長期の講座を指します。これまで開催したワークショップが導入部だとしたら、展開部にあたるといえるでしょう。今年度は「植物から生まれる色」をテーマに藍、茜、紅花について開催し、平成9年5月まで続けられました。

ワークショップ陶芸 初心者陶芸教室

土練りから始まり、基本的成形法を学び、釉薬をかけて、窯詰め、窯出しまでを体験する講座とした。焼物を作るためには、いろいろな行程があり、そのどれもが欠かすことの出来ない作業である。ここでは特に素材である粘土に焦点をあて、その特徴をしっかりと理解するために、土練り、成形に時間をかけた。

対 象 高校生以上

定 員 20名 参加20名

開 催 日 5月7日 5月14日 5月21日 5月28日

時 間 13:00~16:30

場 所 美術館アトリエB



ワークショップ陶芸 夏休み子供陶芸教室

テラコッタ粘土を素材に、動物の動きを表現することで、粘土という素材に慣れている子供たちが、焼物としての粘土の特徴、成形の違いを学ぶことを目的とした。夏休み中に作品を返却するため、7月中に4講座開催した。

対 象 小学生

開 催 日 Aコース 7月27日 Bコース 7月28日

Cコース 7月29日 Dコース 7月30日

定 員 各コース 20名 参加総数 76名

時 間 13:00~16:30

場 所 美術館アトリエB



ワークショップ陶芸 初心者陶芸教室

土練りから始まり、基本的成形法を学び、釉薬をかけて、窯詰め、窯出しまでを体験する講座とした。窯出しの後、参加者全員が、出来上がったばかりの作品と講座の感想を発表した。

対 象 高校生以上

定 員 20名 参加19名

開 催 日 1月20日 1月21日 1月28日 3月17日 3月24日

時 間 13:00~16:30

場 所 美術館アトリエB



ワークショップ陶芸 轆轤による茶碗づくり

焼物の特徴であり、最もよく知られた成形法である轆轤を練習することを目的とした。6名という少人数の講座としたので、きめ細かな指導が可能になった。轆轤の技術を修得するには、多くの時間を要するため、他の陶芸講座より開催日数を増やした。

対 象 高校生以上

定 員 6名 参加 6名

開 催 日 2月10日 2月11日 2月17日 2月18日 2月25日

3月3日 3月17日 3月24日

時 間 13:00~16:30

場 所 美術館アトリエB

ビデオ制作

「山本丘人ー日本画革新の詩ー」(15分)

大磯に在住し、戦後の画壇の革新を担った日本画家山本丘人の画業と生涯を、現在静岡県御殿場市に移築され、山本丘人記念館として公開されているアトリエに取材するなど、ゆかりの地を訪ねながら、紹介した。

ワークショップオリジナルブックの制作

この冊子は、教育普及活動の中から生まれたものです。これまで制作してきたワークショップテキストの中から読み物としておもしろそうなテーマを選び、解説を新たに書き加えています。この冊子は館内のミュージアムショップで販売しています。

- 1 読むワークショップ③ 絵を描く筆の話
B 6 変形判 本文28頁
解説 端山聡子
イラスト 山田りえ



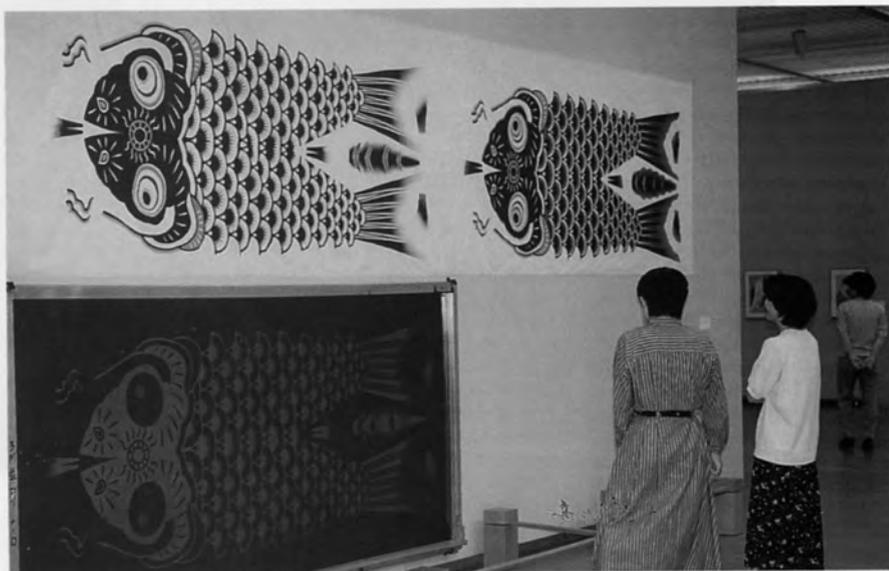
- 2 読むワークショップ④ 藍&プルシャンブルー
B 6 変形判 本文20頁
解説 端山聡子
イラスト 山田りえ



企画展



16世紀～18世紀
ヨーロッパ絵画展



プリント・ワンダーランド 展



菅野 圭介 展



デュフィ 展



二見 利節 展

常設展示

広津和郎寄贈
作品コーナー



市民アートギャラリー



保存・修復

平成7年度修復作品

絵画

No.	作者名	作品名	技法・材質	サイズ (cm)
1	江藤 哲	「裸婦群像」	油彩・キャンバス	206.0×260.0
2	四谷 十三雄	「人物」(仮題)	油彩・キャンバス	130.0×97.0
3	四谷 十三雄	「静物」(仮題)	油彩・キャンバス	130.0×89.0
4	井上 三綱	「牛」	油彩・キャンバス	53.0×73.0
			以上の保存修復処置	黒江光彦
5	松本 節	「廃苑の夏」	油彩・キャンバス	91.0×117.0
6	松本 節	「つた繁る頃」	油彩・キャンバス	117.0×91.0
			以上の保存修復処置	森絵画保存修復工房 森 直義

収蔵庫虫害調査 (虫害モニタリング)

収蔵作品を、生物被害から守るために収蔵庫内の目視による調査を1日と、フェロモントラップ(採集器)による生物収集調査を3週間行ったが、1匹も昆虫類は捕獲されなかった。当館では、平成4年6月に殺虫駆除処理は行っていない。にもかかわらず、今回の調査で害虫が全く認められなかったのは、「収蔵環境の良好な保存管理が行き届いている」との調査報告が行われた。

実施期間	平成7年11月21日～12月12日
調査報告	平成8年1月8日
調査対象	収蔵庫1 552.58㎡
	収蔵庫2 25.6㎡
	特別収蔵庫 24.19㎡
調査機関	財団法人 文化財虫害研究所

平成7年度 収蔵作品

■購入作品

作者名	作品名	制作年	技法・材質	サイズ
中川 一政	椅子の少女	1916	油彩・キャンバス	55.8×42.0
山本 丘人	島の女	1935頃	絹本着色	113.1×36.1
山本 丘人	春近し	1952	紙本着色	60.0×65.0

■寄贈作品

作者名	作品名	制作年	技法・材質	サイズ	寄贈者(敬称略)
益井三重子	先生御書見	1977	紙本着色	155.0×115.5	益井三重子
鳥海 青児	風景(仮題)		鉛筆・紙	17.5×25.0	佐藤 弦
鳥海 青児	風景(仮題)		鉛筆・紙	17.5×25.0	佐藤 弦
鳥海 青児	エルサレム(仮題)		オイルパステル、鉛筆・紙	17.2×25.0	佐藤 弦
鳥海 青児	闘牛士(仮題)	1957	オイルパステル、鉛筆・紙	27.0×20.9	佐藤 弦
鳥海 青児	闘牛士(仮題)	1957	オイルパステル、鉛筆・紙	24.0×19.5	佐藤 弦
鳥海 青児	バルマにて(仮題)		鉛筆・紙	19.5×12.5	佐藤 弦
鳥海 青児	ヴェローナにて		鉛筆・紙	19.5×12.6	佐藤 弦
鳥海 青児	闘牛	1957	オイルパステル、鉛筆・紙	10.1×15.0	佐藤 弦
鳥海 青児	オランダ水差しとレモン		オイルパステル、鉛筆・紙	24.5×37.0	佐藤 弦
鳥海 青児	エルサレム		オイルパステル、鉛筆・紙	32.5×25.0	佐藤 弦
鳥海 青児	インドエロラの石彫		鉛筆・紙	29.5×20.5	佐藤 弦
鳥海 青児	ルクソーアレキサンダー王アモンラー		鉛筆・紙	29.5×20.5	佐藤 弦
鳥海 青児	ピサ		オイルパステル、鉛筆・紙	24.0×31.0	佐藤 弦
鳥海 青児	ローマにて(仮題)		オイルパステル、鉛筆・紙	18.5×12.3	佐藤 弦
中村 琢二	永浜 氏像	1949	油彩・キャンバス	80.5×65.0	中村美代
江藤 哲	裸婦群像	1936	油彩・キャンバス	206.0×260.0	江藤於道
江藤 哲	灯台	1990	油彩・キャンバス	130.3×162.1	江藤於道
江藤 哲	糸車のある静物	1991	油彩・キャンバス	162.1×112.1	江藤於道
ホセ・デ・リベラ	無題		油彩・板	34.0×34.0	ジョセフ・ルイズ
四谷十三雄	静物		油彩・キャンバス	91.0×72.7	星野鉄之
四谷十三雄	コンポジション		油彩・キャンバス	145.5×145.5	星野鉄之
四谷十三雄	コンポジション		油彩・キャンバス	162.0×130.3	星野鉄之
四谷十三雄	人物		油彩・キャンバス	130.3×89.4	星野鉄之
四谷十三雄	静物		油彩・キャンバス	116.7×91.0	星野鉄之
四谷十三雄	静物(壺)		油彩・キャンバス	97.3×130.3	星野鉄之
四谷十三雄	コンポジション		油彩・キャンバス	116.8×91.2	星野鉄之
四谷十三雄	人物		油彩・キャンバス	90.9×65.3	星野鉄之
四谷十三雄	人物		油彩・キャンバス	90.5×72.8	星野鉄之
四谷十三雄	人物		油彩・キャンバス	90.6×72.9	星野鉄之
四谷十三雄	コンポジション		油彩・キャンバス	100.3×80.8	星野鉄之
四谷十三雄	人物		油彩・キャンバス	116.8×91.4	星野鉄之
四谷十三雄	風景		オイルパステル、鉛筆・紙	24.9×35.4	星野鉄之
四谷十三雄	三人		オイルパステル、鉛筆・紙	24.9×35.5	星野鉄之
四谷十三雄	画稿		鉛筆・紙	24.9×35.6	星野鉄之
四谷十三雄	恋人		オイルパステル、鉛筆・紙	25.1×35.4	星野鉄之
四谷十三雄	自画像(仮題)		インク・紙	36.8×25.9	星野鉄之
四谷十三雄	画稿		インク・紙	25.0×35.6	星野鉄之
四谷十三雄	裸婦立像		オイルパステル・紙	38.6×31.5	星野鉄之
四谷十三雄	顔		インク・紙	35.6×25.1	星野鉄之
四谷十三雄	静物(花瓶のある)		鉛筆・紙	36.9×25.9	星野鉄之
四谷十三雄	二人		鉛筆・紙	36.8×25.9	星野鉄之
四谷十三雄	裸婦		インク・紙	35.1×24.8	星野鉄之
四谷十三雄	人体		インク・紙	20.2×14.4	星野鉄之

作者名	作品名	制作年	技法・材質	サイズ	寄贈者(敬称略)
四谷十三雄	男の顔		鉛筆・紙	20.2×14.4	星野鉄之
四谷十三雄	裸婦		鉛筆、水彩・紙	25.0×20.2	星野鉄之
四谷十三雄	女の顔		インク・紙	25.0×35.5	星野鉄之
四谷十三雄	裸婦(肘をつく)		鉛筆・紙	35.6×25.2	星野鉄之
四谷十三雄	二人裸婦		オイルパステル、インク、鉛筆・紙	43.1×33.1	星野鉄之
四谷十三雄	裸婦		インク・紙	35.6×25.2	星野鉄之
四谷十三雄	愛欲		インク・紙	19.7×14.4	星野鉄之
四谷十三雄	人体		インク・紙	35.1×24.9	星野鉄之
四谷十三雄	裸婦(髪を洗う)		インク・紙	35.6×24.8	星野鉄之
四谷十三雄	静物(壺と水差のある)		オイルパステル、インク、鉛筆・紙	39.4×54.1	星野鉄之
四谷十三雄	静物(壺と水差のある)		オイルパステル、インク、鉛筆・紙	39.6×54.7	星野鉄之
四谷十三雄	静物(壺と水差のある)		オイルパステル、インク・紙	39.7×55.0	星野鉄之
四谷十三雄	静物(壺)		インク、色鉛筆・紙	26.5×39.7	星野鉄之
四谷十三雄	風景		水彩・紙	26.0×36.8	星野鉄之
四谷十三雄	顔		鉛筆・紙	51.8×38.0	星野鉄之
四谷十三雄	男		インク・紙	35.8×24.9	星野鉄之
四谷十三雄	絵を描く人		鉛筆・紙	35.6×25.1	星野鉄之
四谷十三雄	裸婦(横たわる)		鉛筆・紙	25.1×35.3	星野鉄之
四谷十三雄	静物(壺)		鉛筆・紙	39.6×54.8	星野鉄之
四谷十三雄	静物(壺)		鉛筆、オイルパステル・紙	39.5×54.8	星野鉄之
四谷十三雄	静物(壺と水差)		鉛筆・紙	54.7×40.0	星野鉄之
四谷十三雄	静物(壺と水差) II		鉛筆・紙	54.7×40.0	星野鉄之
四谷十三雄	静物(壺と水差) III		鉛筆・紙	51.6×39.4	星野鉄之
四谷十三雄	人物(後向き)		オイルパステル、鉛筆・紙	54.1×38.2	星野鉄之
四谷十三雄	立像		水彩・紙	35.5×25.2	星野鉄之
四谷十三雄	人体		鉛筆・紙	38.6×27.2	星野鉄之
四谷十三雄	人体 II		鉛筆・紙	38.6×26.9	星野鉄之
四谷十三雄	座る人		鉛筆・紙	54.3×38.3	星野鉄之
四谷十三雄	座る人 II		鉛筆・オイルパステル・紙	54.5×38.8	星野鉄之
四谷十三雄	座る人 III		オイルパステル、鉛筆・紙	35.8×25.1	星野鉄之
四谷十三雄	座る人 IV		オイルパステル、鉛筆・紙	35.9×25.2	星野鉄之
四谷十三雄	座る人 V		オイルパステル、鉛筆・紙	35.6×24.9	星野鉄之
四谷十三雄	立つ人		オイルパステル、鉛筆・紙	35.7×25.1	星野鉄之
四谷十三雄	うずくまる人		オイルパステル、鉛筆・紙	25.3×35.6	星野鉄之
四谷十三雄	うずくまる人 II		オイルパステル、鉛筆・紙	25.2×35.6	星野鉄之
四谷十三雄	うずくまる人 III		水彩・紙	52.4×76.6	星野鉄之
四谷十三雄	二人		水彩、オイルパステル、鉛筆・紙	76.5×54.3	星野鉄之
四谷十三雄	コンポジション		オイルパステル、鉛筆・紙	54.2×38.3	星野鉄之
四谷十三雄	コンポジション		水彩、鉛筆・紙	68.9×51.7	星野鉄之
四谷十三雄	コンポジション		オイルパステル、鉛筆・紙	38.6×54.3	星野鉄之
四谷十三雄	コンポジション		水彩、オイルパステル、鉛筆・紙	70.4×51.7	星野鉄之
四谷十三雄	コンポジション		オイルパステル・紙	97.0×70.0	星野鉄之
四谷十三雄	コンポジション(二人)		オイルパステル、鉛筆・紙	38.7×52.0	星野鉄之
四谷十三雄	コンポジション		オイルパステル、鉛筆・紙	38.0×54.8	星野鉄之
四谷十三雄	コンポジション		オイルパステル、鉛筆・紙	24.9×35.3	星野鉄之
四谷十三雄	コンポジション(人物)		オイルパステル、鉛筆・紙	38.5×27.4	星野鉄之
四谷十三雄	コンポジション		オイルパステル、鉛筆・紙	25.1×35.7	星野鉄之
四谷十三雄	コンポジション		オイルパステル、鉛筆・紙	25.2×35.1	星野鉄之
四谷十三雄	コンポジション		油彩・紙	30.3×41.8	星野鉄之
四谷十三雄	コンポジション		水彩、鉛筆・紙	30.6×41.8	星野鉄之
四谷十三雄	コンポジション		水彩・紙	30.5×41.9	星野鉄之
四谷十三雄	コンポジション		水彩、鉛筆・紙	30.0×41.8	星野鉄之

作者名	作品名	制作年	技法・材質	サイズ	寄贈者(敬称略)
四谷十三雄	コンポジション		水彩、鉛筆・紙	30.4×41.8	星野鉄之
四谷十三雄	コンポジション		水彩、鉛筆・紙	30.3×41.8	星野鉄之
四谷十三雄	女の顔		オイルパステル・紙	35.5×25.1	星野鉄之
井上 三綱	横顔の女(仮題)		油彩・キャンバス	46.2×40.2	井上皓子
井上 三綱	自画像		油彩・キャンバス	52.2×39.3	井上皓子
井上 三綱	少女		油彩・キャンバス	47.8×40.4	井上皓子
井上 三綱	少女		油彩・キャンバス	55.5×43.0	井上皓子
井上 三綱	二人の女(仮題)		油彩・キャンバス	44.6×37.0	井上皓子
井上 三綱	女(仮題)		油彩・キャンバス	34.7×46.5	井上皓子
井上 三綱	白布の女(仮題)		油彩・キャンバス	53.3×38.9	井上皓子
井上 三綱	鏡をみる女(仮題)		油彩・キャンバス	47.0×42.5	井上皓子
井上 三綱	裸婦		油彩・キャンバス	49.7×44.8	井上皓子
井上 三綱	食を乞う人		油彩・キャンバス	49.0×42.5	井上皓子
井上 三綱	女(仮題)		油彩・キャンバス	49.8×43.3	井上皓子
井上 三綱	風景(仮題)		油彩・キャンバス	44.5×48.8	井上皓子
井上 三綱	風景(仮題)		油彩・キャンバス	37.5×51.0	井上皓子
井上 三綱	親子(仮題)		油彩・キャンバス	52.0×41.4	井上皓子
井上 三綱	馬(仮題)		油彩・キャンバス	57.2×40.5	井上皓子
井上 三綱	牡丹		油彩・キャンバス	50.5×42.0	井上皓子
井上 三綱	風景(仮題)		油彩・キャンバス	42.6×51.0	井上皓子
井上 三綱	風景(仮題)		油彩・キャンバス	38.8×48.4	井上皓子
井上 三綱	水浴図(仮題)		油彩・キャンバス	41.0×45.2	井上皓子
井上 三綱	舞(仮題)		油彩・キャンバス	39.2×54.7	井上皓子
井上 三綱	箱根雪景		油彩・キャンバス	38.5×50.5	井上皓子
井上 三綱	樹と孔雀		油彩・キャンバス	38.4×51.0	井上皓子
井上 三綱	寝殿の孔雀(仮題)		油彩・キャンバス	38.0×51.6	井上皓子
井上 三綱	家のある風景(仮題)		油彩・キャンバス	41.8×53.0	井上皓子
井上 三綱	柿		油彩・キャンバス	35.7×45.5	井上皓子
井上 三綱	馬の首(仮題)		油彩・キャンバス	36.3×41.3	井上皓子
井上 三綱	家のある風景(仮題)		油彩・キャンバス	37.5×45.5	井上皓子
井上 三綱	風景(仮題)		油彩・キャンバス	36.1×44.0	井上皓子
井上 三綱	馬のいる風景(仮題)		油彩・キャンバス	37.0×57.7	井上皓子
井上 三綱	柿(仮題)		油彩・キャンバス	34.0×54.2	井上皓子
井上 三綱	山の繁(仮題)		油彩・キャンバス	38.8×50.5	井上皓子
井上 三綱	少年(仮題)		油彩・キャンバス	40.8×51.5	井上皓子
井上 三綱	浜の風景(仮題)		油彩・キャンバス	40.0×50.0	井上皓子
井上 三綱	小鳥への教え		油彩・キャンバス	50.8×43.0	井上皓子
井上 三綱	コンポジション(仮題)		油彩・キャンバス	58.1×41.0	井上皓子
井上 三綱	馬習作(仮題)		油彩・キャンバス	52.8×41.5	井上皓子
井上 三綱	白馬		油彩・キャンバス	38.7×50.4	井上皓子
井上 三綱	果樹園(仮題)		油彩・キャンバス	39.0×50.7	井上皓子
井上 三綱	家のある風景(仮題)		油彩・キャンバス	38.2×46.0	井上皓子
井上 三綱	焚火を囲む人々(仮題)		油彩・キャンバス	49.7×44.0	井上皓子
井上 三綱	谷間の家(仮題)		油彩・キャンバス	44.8×50.0	井上皓子
井上 三綱	座る男(座る男)		油彩・キャンバス	48.5×42.0	井上皓子
井上 三綱	人物習作(仮題)		油彩・キャンバス	49.3×38.4	井上皓子
井上 三綱	水辺の馬		油彩・キャンバス	71.2×116.0	井上皓子
井上 三綱	乳牛三頭		油彩・キャンバス	70.0×117.4	井上皓子
井上 三綱	女達(仮題)		油彩・キャンバス	91.0×91.0	井上皓子
井上 三綱	まり遊び		油彩・キャンバス	90.0×91.0	井上皓子
井上 三綱	はたおり	1956	油彩・キャンバス	72.8×53.2	井上皓子
井上 三綱	武人達(仮題)		油彩・キャンバス	45.4×95.6	井上皓子

作者名	作品名	制作年	技法・材質	サイズ	寄贈者(敬称略)
井上 三綱	ひと(仮題)		油彩・キャンバス	87.9×54.8	井上皓子
井上 三綱	裸婦座像(仮題)		油彩・キャンバス	60.6×45.6	井上皓子
井上 三綱	髪		油彩・キャンバス	65.5×50.0	井上皓子
井上 三綱	収穫(仮題)		油彩・キャンバス	50.0×64.9	井上皓子
井上 三綱	二人(仮題)		油彩・キャンバス	65.5×53.0	井上皓子
井上 三綱	二人の女(仮題)		油彩・キャンバス	65.0×49.5	井上皓子
井上 三綱	舞(仮題)		油彩・キャンバス	50.0×65.0	井上皓子
井上 三綱	風景習作(仮題)		油彩・キャンバス	53.0×65.0	井上皓子
井上 三綱	籠と果物(仮題)		油彩・キャンバス	72.5×60.5	井上皓子
井上 三綱	舞(仮題)		油彩・キャンバス	72.7×60.6	井上皓子
井上 三綱	裸婦習作(仮題)		油彩・キャンバス	73.0×53.5	井上皓子
井上 三綱	群像習作(仮題)		胡粉、墨、弁柄・紙	47.0×100.6	井上皓子
井上 三綱	馬習作(仮題)		コンテ・紙	53.7×73.0	井上皓子
井上 三綱	人物習作(仮題)		インク・紙	36.0×52.0	井上皓子
井上 三綱	樹木習作(仮題)		油彩・キャンバス	80.7×40.0	井上皓子
井上 三綱	麦島		インク・紙	31.5×47.3	井上皓子
井上 三綱	座る裸婦(仮題)		油彩・キャンバス	60.0×89.0	井上皓子
井上 三綱	座る女(仮題)		コンテ・紙	51.3×31.0	井上皓子
井上 三綱	無知		油彩・キャンバス	44.5×37.0	井上皓子
井上 三綱	横たわる男(仮題)		コンテ、チョーク・紙	52.5×38.0	井上皓子
井上 三綱	ほお杖をつく女		油彩・キャンバス	59.0×48.9	井上皓子
井上 三綱	畑のある風景(仮題)		インク・紙	24.2×57.5	井上皓子
井上 三綱	座る人(仮題)		油彩・紙	45.3×52.5	井上皓子
井上 三綱	騎馬群像習作(仮題)		油彩・キャンバス	31.0×88.5	井上皓子
井上 三綱	騎馬群像習作(仮題) 古蹟発掘		油彩・キャンバス	31.0×88.5	井上皓子
井上 三綱	田園風景(仮題)	1940	油彩・キャンバス	30.0×63.1	井上皓子
井上 三綱	鏡を見る女(仮題)		油彩・キャンバス	45.8×52.7	井上皓子
井上 三綱	笛吹く人たち(仮題)		油彩・キャンバス	68.3×29.3	井上皓子
井上 三綱	樹木習作(仮題)		油彩・キャンバス	52.2×45.5	井上皓子
井上 三綱	松崎		油彩・キャンバス	31.0×58.1	井上皓子
井上 三綱	裸婦習作(仮題)		油彩・キャンバス	50.0×46.5	井上皓子
井上 三綱	休息の景(仮題)		油彩・キャンバス	35.0×58.2	井上皓子
井上 三綱	馬習作(仮題)		油彩・キャンバス	49.2×60.0	井上皓子
井上 三綱	馬を飼う家(仮題)		油彩・キャンバス	35.0×82.6	井上皓子
井上 三綱	馬習作(仮題)		油彩・キャンバス	50.7×63.6	井上皓子
井上 三綱	語らい(仮題)		油彩・キャンバス	36.0×64.0	井上皓子
井上 三綱	若い女(仮題)		油彩・キャンバス	52.4×40.1	井上皓子
井上 三綱	馬習作(仮題)		油彩・キャンバス	37.0×69.0	井上皓子
井上 三綱	坂道(仮題)		油彩・キャンバス	45.1×53.3	井上皓子
井上 三綱	働く人々(仮題)		油彩・キャンバス	33.0×66.5	井上皓子
井上 三綱	水浴図(仮題)		油彩・キャンバス	52.5×45.0	井上皓子
井上 三綱	槌をふる人たち(仮題)		油彩・キャンバス	33.0×66.0	井上皓子
井上 三綱	作業		油彩・キャンバス	52.3×45.5	井上皓子
井上 三綱	裸婦習作(仮題)		油彩・キャンバス	36.0×74.5	井上皓子
井上 三綱	馬の親子(仮題)		油彩・キャンバス	49.4×64.9	井上皓子
井上 三綱	三人の男(仮題)		油彩・キャンバス	33.5×66.0	井上皓子
井上 三綱	婦人像習作(仮題)		油彩・キャンバス	74.9×41.0	井上皓子
井上 三綱	林間(仮題)		油彩・キャンバス	66.0×33.5	井上皓子
井上 三綱	箱根(仮題)		油彩・キャンバス	48.6×75.3	井上皓子
井上 三綱	静物(仮題)		油彩・キャンバス	36.0×75.0	井上皓子
井上 三綱	精肉作業の人(仮題)		油彩・キャンバス	63.3×52.4	井上皓子
井上 三綱	静物(仮題)		油彩・キャンバス	36.0×74.8	井上皓子

作者名	作品名	制作年	技法・材質	サイズ	寄贈者(敬称略)
井上 三綱	海辺(仮題)		油彩・キャンバス	49.5×64.7	井上皓子
井上 三綱	静物(仮題)		油彩・キャンバス	36.0×75.0	井上皓子
井上 三綱	宮人たち(仮題)		油彩・キャンバス	55.0×95.5	井上皓子
井上 三綱	強羅の霧		油彩・キャンバス	33.5×65.3	井上皓子
井上 三綱	静物(仮題)		油彩・キャンバス	52.3×83.0	井上皓子
井上 三綱	働く人々(仮題)		油彩・キャンバス	33.5×71.5	井上皓子
井上 三綱	刈取る人(仮題)		油彩・キャンバス	52.0×84.0	井上皓子
井上 三綱	馬習作(仮題)		油彩・キャンバス	54.0×88.5	井上皓子
井上 三綱	ゆあみ		油彩・キャンバス	72.7×60.6	井上皓子
井上 三綱	休む男(仮題)		油彩・キャンバス	72.5×49.5	井上皓子
井上 三綱	馬習作(仮題)		油彩・キャンバス	42.2×58.8	井上皓子
井上 三綱	夏		油彩・キャンバス	74.7×37.0	井上皓子
井上 三綱	馬のいる風景(仮題)		油彩・キャンバス	33.5×66.5	井上皓子
井上 三綱	横たわる女(仮題)		油彩・キャンバス	36.4×75.5	井上皓子
井上 三綱	三人の女(仮題)		油彩・キャンバス	35.0×57.5	井上皓子
井上 三綱	働く女たち(仮題)		油彩・キャンバス	82.8×60.5	井上皓子
井上 三綱	コンポジション(仮題)		油彩・キャンバス	53.0×72.5	井上皓子
井上 三綱	牛二頭(仮題)		油彩・キャンバス	25.3×55.0	井上皓子
井上 三綱	牛の親子(仮題)		胡粉、弁柄、墨・紙	25.3×55.0	井上皓子
井上 三綱	秋の果物		胡粉、着色・紙	33.0×47.4	井上皓子
井上 三綱	果物		胡粉、着色・紙	33.3×47.2	井上皓子
井上 三綱	果物		胡粉、着色・紙	43.0×47.2	井上皓子
井上 三綱	牛(仮題)		胡粉、墨・紙	31.3×40.6	井上皓子
井上 三綱	桃(仮題)		胡粉、着色・紙	41.0×32.0	井上皓子
井上 三綱	桃		着色・紙	41.0×32.2	井上皓子
井上 三綱	桃(仮題)		着色・紙	41.2×32.1	井上皓子
井上 三綱	文字のおこり(仮題)		胡粉、墨、弁柄・紙	38.0×45.6	井上皓子
井上 三綱	卓上の壺(仮題)		胡粉、着色・紙	37.8×45.8	井上皓子
井上 三綱	馬(仮題)		胡粉、着色・紙	37.8×45.5	井上皓子
井上 三綱	牛(仮題)		胡粉、コンテ・紙	14.9×19.2	井上皓子
井上 三綱	顔(仮題)		油彩、キャンバス	33.0×24.2	井上皓子
井上 三綱	二人立像(仮題)		油彩、胡粉・キャンバス	41.0×31.7	井上皓子
井上 三綱	馬の顔(仮題)		墨、パステル・紙	37.8×28.1	井上皓子
井上 三綱	叩かれた蚊		胡粉、墨、弁柄・紙	27.0×37.0	井上皓子

収蔵作品



中川一政 「椅子の少女」



山本岳人 「春近し」



山本岳人
「島の女」

寄贈作品



井上三綱作 「はたおり」

平成7年度 観 覧 者 数

(人)

月	開館 日数 (日)	企 画 展					常 設 展					合 計
		一 般	高大生	小中生	未就学	計	一 般	高大生	小中生	未就学	計	
4	26	2,012	105	122	54	2,293	2,110	99	111	53	2,373	4,666
5	26	9,002	422	670	206	10,300	7,054	324	566	130	8,074	18,374
6	26	0	0	0	0	0	835	35	40	18	928	928
7	24	2,236	0	226	0	2,462	826	65	267	36	1,194	3,656
8	27	3,135	205	1,419	197	4,956	2,795	204	1,550	142	4,691	9,647
9	26	2,870	100	419	160	3,549	2,524	110	278	106	3,018	6,567
10	26	6,396	128	443	86	7,053	4,848	104	427	62	5,441	12,494
11	26	5,353	192	630	108	6,283	4,244	134	707	66	5,151	11,434
12	23	6,047	254	378	78	6,757	4,305	173	309	48	4,835	11,592
1	22	625	14	19	5	663	1,014	44	358	26	1,442	2,105
2	25	3,510	73	211	67	3,861	2,581	59	156	37	2,833	6,694
3	26	1,059	11	16	22	1,108	1,389	74	89	47	1,599	2,707
合計	303	42,245	1,504	4,553	983	49,285	34,525	1,425	4,858	771	41,579	90,864

平成7年度 施 設 利 用 状 況

月	開館 日数 (日)	視 察 ・ 施 設 見 学						会議室等
		市 内		市 外		計		
		件 数	人 数	件 数	人 数	件 数	人 数	件 数
4	26	1	24	3	130	4	154	0
5	26	1	106	0	0	1	106	5
6	26	0	0	2	36	2	36	10
7	24	0	0	3	28	3	28	5
8	27	1	23	1	25	2	48	3
9	26	0	0	0	0	0	0	3
10	26	0	0	2	42	2	42	5
11	26	1	50	4	171	5	221	12
12	23	0	0	1	5	1	5	0
1	22	0	0	1	50	1	50	3
2	25	0	0	2	56	2	56	4
3	26	0	0	2	15	2	15	6
合計	303	4	203	21	558	25	761	56

平成7年度 学校団体観覧利用者数

		常 設 展			企 画 展 ・ 常 設 展		
		学校数	児童生徒数	教員数	学校数	児童生徒数	教員数
小学校	市内	4	326	12	14	463	38
	市外	0	0	0	0	0	0
中学校	市内	0	0	0	24	1,138	61
	市外	0	0	0	0	0	0
高等学校		0	0	0	0	0	0
養護学校		0	0	0	1	24	12
合 計		4校	326人	12人	39校	1,625人	111人

平成7年度 市民アートギャラリー利用状況

月	展覧会 開催日数 (日)	利用 団体数 (件)	入場者数 (人)	展 覧 会 名
4	25	6	6,856	湘南芸術家協会展、湘南市民美術会展、パンの花・ルナフローラ展、環境保全ポスター展、湘南美術研究会展、松尾咲心教室発表会
5	25	5	4,903	'95平塚写真連盟展、林 オキ油絵展、あとろえはなひで みんなの花展PARTⅡ、18人会展、寂静会「想 展」
6	25	6	3,703	第14回湘南写真家協会展、継承と創造の2人展、第26回平塚書道協会展、旭彩会・柳彩会合同展、楽窯会作品展、第16回圓心流画道発表会
7	17	1	3,426	第18回平塚市展
8	17	5	5,898	神奈川県筆友書道連盟公募展、大門書悠会展、入木会展、尾崎俊雄絵画展、華フローラル・アート展
9	25	4	3,873	神奈川現展、則天書道協会・全国七夕競書大会展、湘南作家展、平塚美術協会展
10	25	4	4,753	22展、S & A油彩展、第31回J R P写真展、平塚市中学校絵画展、平塚市文化祭
11	25	7	13,601	幼小図工作品展、MOA平塚児童画作品展、ひまわりの会、静邱書作展、藤村弘子ファミリー展、教員美術展
12	22	6	3,134	日本画第7回なでしこ会展、創作人形個展、「親と子による写生会」作品展覧会、TWO+ONE展、神奈川大学SHC写真部第7回学外展、秋葉杜紫女水墨画展
1	18	4	3,291	第56回平塚書道協会書初展、平塚市医師会文化祭、アッセンブリッジ展Ⅱ、山口幸恵油絵展
2	25	6	4,056	坪井賀子展、労金「子供書き初め展」、波の子造形研究所作品展、島村令章写真展「遠い森の記憶」、ユキ油絵グループ展、なかよし作品展、菁陶会作品展、日特アトリエ展
3	25	7	5,138	'96造形絵画作品展、湘南窯陶芸教室展、第11回陶芸サロン展、圓心流画道奏心教室、かな書展
合計	274	61	62,632	

第18回 平塚市展

会 期	平成7年7月15日(土)～7月30日(日)
主 催	平塚市展委員会、平塚市教育委員会
協 力	平塚書道協会、湘南工芸家協会、平塚美術協会、平塚写真連盟
後 援	平塚市、平塚文化連盟、平塚商工会議所、TVKテレビ、SCN湘南ケーブルネットワーク
会 場	平塚市美術館 展示室I・市民アートギャラリー

展示室Iに工芸、書、写真部門が、市民アートギャラリーに絵画部門が展示された。

沿 革

- 1984年 5月 美術館建設研究委員会発足（庁内）
- 1985年 7月 平塚市美術館基本構想策定委員会設置
（1986年まで8回開催）
- 1986年 3月 「平塚市美術館基本構想策定」答申
- 1986年 4月 美術館建設基本計画策定連絡協議会設置（庁内）
- 1986年 9月 「平塚市美術館建設基本計画」策定
- 1988年 4月 美術館建設準備室設置
- 1989年 6月 美術館建設 起工
- 1990年 10月 美術館本体工事 竣工
- 1990年 12月 平塚市美術館条例 公布
- 1991年 3月 平塚市美術館 開館

運営・組織

美術館協議会

委員名簿

会長	水越 謙	元教育委員
副会長	今村信夫	平塚美術協会会長、元市立金田小学校長
委員	村重 寧	早稲田大学文学部教授（美術史家）
”	安田建一	中央公論美術出版社長（美術評論家）
”	平野 博	元美術館基本構想策定委員
”	水島英耀	平塚市文化連盟会長、平塚市文化財保護委員
”	武井徳一	前社会教育委員
”	芝山恵美子	元国際ソロプチミスト平塚会会長

協議会の開催

平成7年5月31日	（美術館研修室於）
	1、平成6年度事業報告について
	2、その他
平成7年8月23日	（美術館研修室於）
	1、委嘱状の交付
	2、正・副会長の選出について
	3、視察研修について
平成7年10月17日～18日	先進美術館の視察
	・群馬県立近代美術館
	・ ” 歴史博物館
	・萩原朔太郎記念館

組織



職員名簿

館長	原田 実
美術館・博物館 担当参事	南里 宏
副館長	古谷 勇
主幹	塩川 勝也
館長代理兼 管理係長	亀谷 幸藏
管理係	添田 勝子
	高橋 秀夫
	高橋 美里
館長補佐兼 学芸係長	森田 英之
企画担当主査	岡部 幹彦
学芸係	小松崎 拓男
	石渡 尚
	曾我 政弘
	鈴木 幹
	端山 聡子
	小池 光理

平成7年度

平塚市美術館年報

発行 平塚市美術館

〒254 平塚市西八幡1-3-3

Tel 0463 (35) 2111

印刷 (株)興版印刷

Tel 0463 (32) 1899

平塚市新町7-15

平成9年3月31日発行